

福知山線列車事故について

2005年4月25日、弊社は、106名のお客様の尊い命を奪い、500名を超える方々を負傷させるという、極めて重大な事故を惹き起こしました。改めましてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々とご家族の皆様に、心より深くお詫び申し上げます。

併せて、事故に関して多大なるご心労、ご迷惑をおかけいたしましたお客様や地域の皆様方に、心からお詫び申し上げます。

弊社としましては、被害に遭われた方々に精一杯対応させていただくとともに、2013年3月に策定した「JR西日本グループ中期経営計画2017」(以下、「中期経営計画」)および「安全考動計画2017」(以下、「安全考動計画」)のもと、さらなる安全対策の充実、企業風土の変革に取り組んでおります。

そして、この事故を深く心に刻み、お客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている責任を強く自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げることに全力を挙げて取り組んでまいります。

概要

発生日時

2005年(平成17年)4月25日(月) 9時18分ごろ 天候 晴

発生場所

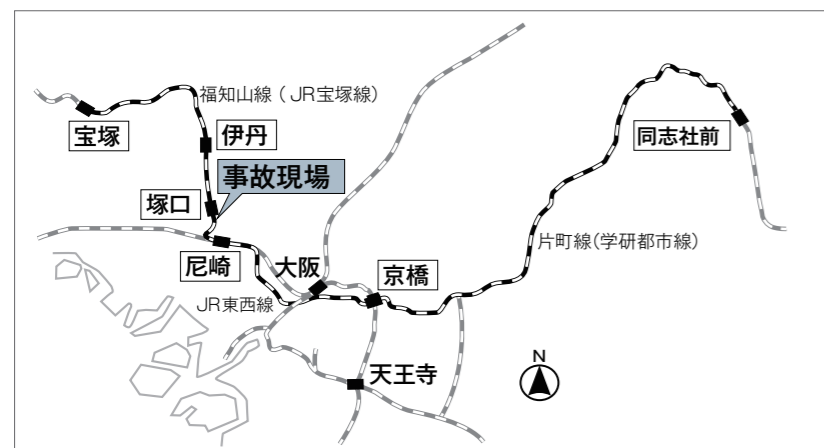
福知山線 塚口駅～尼崎駅間
尼崎駅起点上り 1k805m付近(兵庫県尼崎市)

関係列車

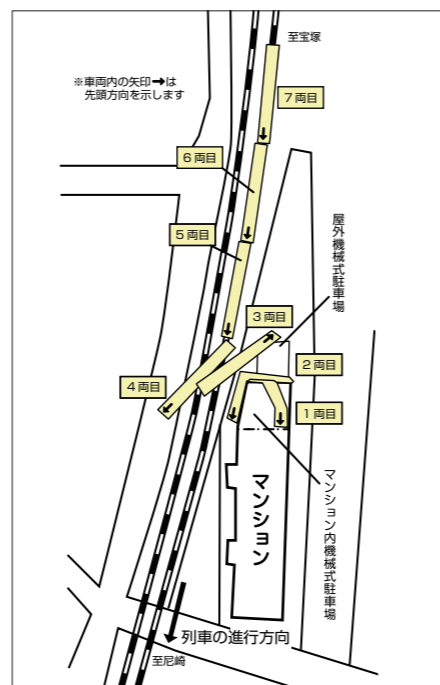
宝塚駅発同志社前駅行き 上り快速 電第5418M列車(207系7両編成)

概況

電第5418M列車は、塚口駅～尼崎駅間において、半径304mの右曲線に制限速度70km/hを大幅に超える116km/hで進入し、先頭車両から5両目車両までが脱線、先頭車両と2両目車両が進行方向左側のマンションに衝突しました。この事故により、106名のお客様がお亡くなりになり、運転士1名が死亡しました。さらに、562名のお客様と付近をご通行中の方1名にお怪我を負わせてしまいました。



事故現場



事故時列車状況



事故発生当時の現場付近見取り図

事故後の対応

安全性向上の取り組み

安全性向上計画

福知山線列車事故後、直ちにこれまでの取り組みを振り返り、反省すべき点や課題を踏まえて、より安全性を向上させるための課題を抽出し、できることから早急を実施すべく、「安全性向上計画」を策定し、推進してきました。

安全基本計画

航空・鉄道事故調査委員会(当時)から「鉄道事故調査報告書」が示されたことを契機として、2008年に「安全基本計画」を策定し、「お客様の死傷事故ゼロ、社員の重大労災ゼロへ向けた体制の構築」を到達目標として、リスクアセスメントの導入をはじめ、コミュニケーションの改善やヒューマンファクターの理解の浸透などに5年間取り組みました。

安全考動計画

事故後のさまざまな振り返りや反省、社内外の新たな知見や経験などを踏まえ、福知山線列車事故のような事故を二度と発生させないという決意のもと、「安全考動計画」を策定しました。JR西日本グループの鉄道サービスをご利用いただくお客様を安全に目的地までご案内するとともに、その業務に携わる誰もが、大怪我や死亡に至ることがないように、5年間の目標を数値化した上で、具体的な取り組み内容を定めました。安全は、役員・社員一人ひとりの努力によって維持し、向上させていくものであるという認識のもと、全員参加で計画を推進しています。

⇒「安全考動計画」についてはP.26に記載しています。併せてご覧ください。

被害に遭われた方々への対応

現在、ご遺様をはじめ被害に遭われた方々に対しては、専任組織である「福知山線列車事故ご被害者対応本部」で対応させていただいており、お一人おひとりのお気持ちやご意見を丁寧にお伺いしながら、精一杯の対応に努めております。

追悼慰霊式の開催

2005年9月に「慰霊と安全のつどい」を開催し、その後、毎年4月25日には「追悼慰霊式」を開催いたしております。また、式典終了後には、例年一般の方々などからの献花もいただいております。

ご説明会の開催

弊社の課題や取り組みなどについて、被害に遭われた方々にご説明申し上げ、ご意見などをお伺いさせていただく場として、社長をはじめ関係役員などが出席するご説明会などを開催いたしております。



追悼慰霊式



整備後の事故現場

事故現場の整備

事故現場は、弊社が多くのお客様の尊いお命を奪い、大変なお怪我を負わせてしまった場所です。お亡くなりになられた方々を慰霊・鎮魂するのにふさわしい場所となるよう、また安全構築の原点として弊社役員および社員が安全を誓い、社会や後世にいのちの大切さを伝え続けていく場所となるよう整備してまいります。

事故を踏まえての地域社会のお役に立つ取り組み

重大な事故を惹き起こしたことの反省に立ち、将来にわたり社会のお役に立つ取り組みを行っていくために、2009年4月にJR西日本あんしん社会財団を設立し、市民の方々を対象とした心身のケアの取り組みや安全基盤形成に関する研究助成などを行っております。

⇒JR西日本あんしん社会財団についてはP.38に記載しています。併せてご覧ください。

事故を心に刻み考動していく取り組み

福知山線列車事故から12年が経過し、事故後入社した社員がJR西日本単体で3分の1を超える状況となった中、この事故を将来にわたって決して風化させず、社員一人ひとりが事故の重大性と安全の重要性を肝に銘じ、安全性向上と信頼回復に向けた取り組みを実践していくために、JR西日本グループ全体で事故を心に刻み考動していく取り組みを継続しています。

毎月25日を「安全の日」と定め、安全に関する学習や系統を越えたディスカッションなど、各職場で工夫した取り組みを行っています。特に、毎年4月25日をむかえるにあたり、福知山線列車事故から学び心に刻むための研修を全職場・グループ会社で実施しています。また、福知山線列車事故の反省点や課題を認識し、これらを踏まえた安全性向上の取り組みなどについて学び、社員一人ひとりの業務につなげていくことを目的に、「鉄道安全考動館」^{*1}や事故現場において安全研修を実施しています。

併せて、被害に遭われた方々への対応を行ってきた社員が中心となって、事故の悲惨さなどについて語り継ぐことを

目的に特別講義を実施するとともに、ご被害者に直接講話していただき、その講話を収録したDVDを視聴するなど、社員がご被害者のお声やご意見をお聞きする機会も設けています。さらに、社員一人ひとりがこの事故の重大性や安全の重要性を一層強く認識するため、弊社社員およびグループ会社社員が自主的に事故現場を訪れて献花を行っているほか、献花台の前に立哨して献花を訪れる方々をおむかえする取り組みも継続しています。

「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」ことはJR西日本グループの責務であり、変わらぬ決意です。そして、グループで働く一人ひとりがこの決意を胸に、事故から学び、心に刻んだことを日々の業務の中で実行していくことが極めて重要であると認識しています。被害に遭われた方々への対応については、引き続き弔問やお見舞いなどを通じご被害者の思いを丁寧かつきめ細かく受け止めさせていただき、努めてまいります。また、将来にわたってご被害者のさまざまなご意見などをお伺いし、ご相談に応じることができるよう、対応の窓口を堅持してまいります。

「中期経営計画」においても、経営の3本柱である「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」を、引き続き経営の最重要課題と位置付けています。今後とも、お客様に安心・信頼してご利用いただける鉄道を築き上げるため、日々の弛まぬ努力を積み重ねてまいります。



事故現場での研修



献花台での立哨

ご遺族様の特別講話をお聞きした新入社員の決意

今回、福知山線列車事故のご遺族様の講話を聞かせていただきましたが、その中で強く感じたことが二つあります。

一つは、安全で安心な鉄道づくりを必ず実現していかなければならないということです。私たち一人ひとりが、福知山線列車事故が本当に痛ましい事故であること、ご遺族様の深いお悲しみやお苦しみは消えることがないことを決して忘れず、二度とこのような事故を惹き起こさないことを胸に刻み、日々の業務に従事していくことが大切であることを痛切に感じました。もう一つは、お客様の当たり前を守っていくことの大切さです。

ご遺族様は、事故当日の「行ってきます」という普段どおりの一言が奥様との最後の会話になってしまったことに深く悔いを残しておられるように感じました。それは「行ってきます」や「おかえり」と何気なく言葉を交わすご被害者の「当たり前」であった日常を、当社が突然に奪ってしまったからにはかなりません。今回の講話を通じて、私たちはお客様の「当たり前」を絶対に守らなくてはならないという思いを強くするとともに、私自身もこれを守っていくのだという強い決意を心に刻みました。

そのためにも、私自身がJR西日本の一員としていち早く鉄道のプロとなり、今回の講話で学んだことや決意をこれからの仕事の中でしっかりと持ち続けながら、自ら安全について考え、行動していきます。

新幹線管理本部 広島新幹線保線区 施設管理係 三宅 恭平

事故後の対応

2005.4.25 福知山線列車事故	JR西日本の取り組み	
	安全の取り組みなど	被害に遭われた方々への対応
05.9 「鉄道事故調査」公表 [建議]	05.5 「安全性向上計画」策定	05.5 「福知山線列車事故相談室」の設置
05.11 「安全性向上計画」の着実な実施についての報告	05.6 「安全諮問委員会」開催 第1回	05.6 「お詫びと今後の取り組み」の「説明会」開催
06.3 鉄道事業法改正	06.3 新たな「企業理念」「安全憲章」制定	05.10 「安全性向上計画」の進捗状況等のご説明会開催
06.10 「運輸安全マネジメント」評価(第1回)実施	06.6 「安全研究所」設立	06.1 「地区別懇話会」開催
07.2 「意見聴取会」開催	06.10 「安全を最優先する企業風土」の構築を経営目標とした「JR西日本グループ中期経営目標」の見直し	06.3 福知山線列車事故「ご被害者対応本部」の設置
07.6 「鉄道事故調査報告書」公表 [建議]「所見」	06.10 「鉄道安全管理規程」制定	06.4 「追悼慰霊式」開催
07.10 「運輸安全マネジメント」評価(第2回)実施	07.4 「鉄道安全考動館」開設	06.7 「ご報告会」開催
08.10 「航空・鉄道事故調査委員会」を「運輸安全委員会」に改組	07.4 「安全を推進有識者会議」開催 第1回	07.4 「追悼慰霊式」開催
08.10 「運輸安全マネジメント」評価(第3回)実施	07.6 「鉄道安全報告書」公表 2007年	07.8 「ご説明会」開催
09.9 事故調査に係る情報漏えい等についての働きかけの事実判明	07.7 「安全諮問委員会」最終報告」取りまとめ	08.4 「安全基本計画」ご説明の場」開催
09.9 左記に関する報告を命令	07.9 「安全推進有識者会議」提言	08.4 「追悼慰霊式」開催
09.10 「運輸安全マネジメント」評価(第4回)実施	08.2 「安全推進有識者会議」開催	09.4 「追悼慰霊式」開催
10.3 「運輸安全マネジメント」評価(臨時)実施	08.4 「安全基本計画」策定	09.8 「ご説明会」開催
11.1 「運輸安全マネジメント」評価(第5回)実施	08.5 「JR西日本グループ中期経営計画」2008・2012」策定	09.10 「お詫びの会」開催
11.4 「運輸安全委員会の検証チームが「不祥事問題の検証」事故調査システムの改革に関する提言」を公表	09.10 「JR西日本グループ中期経営計画」2008・2012」の見直し	09.12 「ご説明会」開催
12.10 「運輸安全マネジメント」評価(第6回)実施	09.11 情報漏えい等に係る国土交通大臣への報告	10.4 「追悼慰霊式」開催
15.1 「運輸安全マネジメント」評価(第7回)実施	09.12 企業再生推進本部、企業倫理・リスク統括部の設置	10.12 「ご説明会」開催
	10.10 情報漏えい等に係る国土交通大臣への報告	11.4 「追悼慰霊式」開催
	10.12 情報漏えい等に係る国土交通大臣への経過報告	11.11 「ご説明会」開催
	13.3 「JR西日本グループ中期経営計画2017」 「安全考動計画2017」策定	12.4 「追悼慰霊式」開催
	15.4 「JR西日本グループ中期経営計画2017」進捗状況と今後の重点取り組み(アップデート)」公表	12.11 「ご説明会」開催
	16.4 「安全管理体制に対する第三者評価」報告書の初公表	13.4 「追悼慰霊式」開催
	16.6 「安全管理体制に対する第三者評価」報告書の初公表	13.5 「安全考動計画2017」に関する「ご説明会」開催
		13.11 「事故現場に関するご説明会」開催
		14.1 「事故現場に関するご説明会」開催
		14.11 「追悼慰霊式」開催
		15.4 「追悼慰霊式」開催
		15.11 「事故現場に関するご説明会」開催
		16.4 「追悼慰霊式」開催
		16.11 「事故現場に関するご説明会」開催
		17.4 「追悼慰霊式」開催

*1 鉄道安全考動館: 福知山線列車事故の反省点や課題を認識し、それらを踏まえた安全性向上のための取り組みについて学ぶ「福知山線列車事故研修室」と過去の事故事例から得られた教訓を体系的に学ぶ「鉄道事故歴史研修室」から成り、安全教育的原点として活用しています

*2 「全員参加型の安全管理」[安全管理体制に対する第三者評価]については、P.25~30「安全」に記載しています。併せてご覧ください